

戦争とトラウマにまつわる問題

なぜ戦うのか？

Courtenay Young

本稿は、戦争あるいは武力衝突といった人間の異常な行動に関する根本的な問いに答えようとするものである。動物界にはこのような行動の例はめったになく、それゆえ、"異常"という言葉で表現した。人間は、おそらく地球上で唯一、同じ種族の他者に対して持続的な侵略（戦争）を行っている動物である。怒りや憤怒、さらには虐待などの異常行動の例はたくさんあるが、同じ種族の他集団に持続的かつ直接的な怒りを示すことは、特異とまでは言わないまでも、信じられないほど稀なことである。なぜなのだろうか？

現代のライヒ派分析と戦争のトラウマ

Edoardo Pera

本稿は、著者が、主に中東で行ってきた過去 20 年間の緊急事態後の任務の経験に基づくものである。戦争のトラウマについて、具体的には、現代のライヒ派分析がいかにかそれを解明し、戦争によって生じたトラウマに苦しむ人々を支援できるのか、また他のアプローチと組み合わせて支援できるのかについて探求した。複雑な社会的、文化的、政治的状況をふまえると、我々の研究は、戦争によるトラウマをより深く理解し、身体を通じた介入の提案を目指すには、まだ始まったばかりであるが、この領域では、とりうるステップとそうでないステップとが存在することを示した。

戦争中に生まれるということ

ウクライナのチャイルド・バース・エデュケーター **Hanna Kemp** とのインタビューから

Christina Bogdanova

INTERNATIONAL BODY PSYCHOTHERAPY JOURNAL

The Art and Science of Somatic Praxis

Published by the European and United States Associations for Body Psychotherapy and Somatic Psychology

Hanna Kemp は、ウクライナのチャイルド・バース・エドゥケーター（妊娠出産に関する教育者）であり、産後リハビリのスペシャリストとして、国際的にウクライナ女性のために活動している。本誌の副編集長 Christina Bogdanova とのインタビューでは、Kemp は女性の戦争体験——戦争地帯での妊娠と出産、難民としての生活、特に、妊娠中や幼い子供がいる場合に、外国の限られた資源の中で子育てをし、いじめにあうなど——について詳細に語ってくれた。彼女自身も、子どもとともにウクライナを逃れてきた経験から、アイデンティティの喪失や孤独、絶え間のない警戒、不確かな未来にさらされている。彼女は現在、ウクライナの女性達にオンラインによるサポート体制を提供しており、戦争トラウマを体験している人々を支えるためのソマティックな手法と同様に、タッチとトラウマに配慮したマッサージを提供することの重要性を共有してくれた。

戦争の残虐行為による影響を受けた子どもや養育者へのエンパワメント

Maggie Kline

戦争は、すべての人にその痕跡を残すが、その中でも、子どもは、最も傷つきやすい存在である。成長していく脳と身体は、五感を通して吸収したものから、暗黙的かつ明らかな痕跡を形作る。こうした痕跡は、脳と身体の解剖学および生理学的な形状を形成していく。もし子供時代を奪われたなら、彼らは世界（そして他者）を危険なものとしてしか認識できないまま成長するのだろうか。それとも、世界を安全な場所として認識できるのだろうか。我々は、優しい眼差しと安心できる安全な触れ合いを通じて、自然の美しさ、驚き、喜びに満ちた世界を彼らに示すことが求められている。レジリエンス・ロードマップ・モデル (Resilience Roadmap Model) は、戦争によって条件付けられた脅威反応によって生じる不安に拮抗するために、健全な愛着の本質を用いて、外的に同時制御するためのリソースの提供を提案する。ソマティック・エクスペリエンス®の原理を描画や動きと組み合わせることで、安全と自己防御といった内受容的体験が、トラウマの痕跡を勝利という結末の新しいストーリーに変えることができる。皆様も、世界の子どもたちのために、幸福の種を植える活動に加わるようインスパイアされますように。

世代を超えたトラウマ

Editor-In-Chief Madlen Algafari editorinchief@ibpj.org

Deputy Editor Aline LaPierre deputyeditor@ibpj.org • Managing Editor Antigone Oreopoulou managingeditor@ibpj.org

戦士の会話の役割

Sally E. Watson

本稿は、戦士の会話と世代を超えたトラウマとの関係に焦点を当てたものである。現代の長期的な紛争における戦士の会話に関する広範な研究から得られた知見をもとに、トラウマが世代を超えて伝達される経路を探求した。世代を超えたトラウマを理解するためのトラウマ・インフォームド・アプローチを概説し、トラウマを癒すために身体に焦点を当てたケースを紹介した。

戦争トラウマに迅速に対応するための組織づくりとは ソマティック・エクスペリエンス・ウクライナ・タスクフォースからの教訓

Melissa Sinclair

ロシア・ウクライナ戦争の激化に伴うヨーロッパの危機に対応するため、2022年2月に、ソマティック・エクスペリエンス・ウクライナ・タスクフォース（the Somatic Experiencing Ukraine Task Force : SEUTF）が設立され、それには、4大陸37カ国から数百人のボランティアが協力した。世界のソマティック・エクスペリエンスのコミュニティにとって、こうした迅速な動員力と戦争のトラウマに対処するために得たリソースは、史上初のものである。本稿は、SEUTFのプロセスと成果の記録である。戦争によるトラウマや状況の変化に伴って生じる集団的危機の瞬間にリアルタイムで対応するため、効果的かつ協力的な体制を組織し、維持することを望むボディ・サイコセラピストにとっても、最善策をとる上で役立つものである。

マイクロバイームと脳のつながりを探る

——Ioannis Gampierakis との対談——

Antigone Oreopoulou & Aline LaPierre

INTERNATIONAL BODY PSYCHOTHERAPY JOURNAL

The Art and Science of Somatic Praxis

Published by the European and United States Associations for Body Psychotherapy and Somatic Psychology

炎症は、先祖から伝わる脅威に対する身体反応であり、怪我や外来の病原体に対する防御の最前線として生じるものである。しかし、現代において脅威となるものが進化するにつれ、心臓病や癌などの主要な死亡原因のみならず、鬱や不安などの精神的症状においても、表面下で炎症がいかに徐々に進行し、迫ってくるのかについて、科学的に明らかにされつつある。この対談では、ハーバード大学の神経生物学者 Ioannis Gampierakis が、自身の研究である炎症によるストレスが、うつ病や不安に与える影響、すなわち腸やマイクロバイオーーム[訳者注：人間の体に共生する微生物（細菌・真菌・ウイルスなど）の総体のこと]、全身性炎症や免疫系、そして成体脳の神経新生（adult neurogenesis；訳者注：成体の脳で神経幹細胞からニューロンが生成されるプロセスのこと）の役割を理解するためのパラダイムシフトについて、加えて、それらがどのように脳機能に寄与するかについて語った。

事例研究

Courtenay Young

この短報は、事例研究に関する3冊の本をレビューし、さらに、ボディ・サイコセラピーの事例研究に関する書物をさらに発展させていくためのプロジェクトについて告知するものである。

第二次世界大戦よりコンパッションとともに

カラトニア®・ソマティック・アプローチによる

世界的な再編成とソーマとサイケの相互調整

Anita Ribeiro Blanchard

カラトニア®（Calatonia®）は、自己制御状態の回復に基づくソマティック・アプローチであり、ハンガリーの医師 Pethö Sándor が第二次世界大戦中、赤十字の医師として働いていたさまざまな難民キャンプで開発したものである。当初はトラウマに基づくアプローチだったが、その後、1950年代に Sándor が移住したブラジルで、心理療法に取り入れられるようになった。

Editor-In-Chief *Madlen Algafari* editorinchief@ibpj.org

Deputy Editor *Aline LaPierre* deputyeditor@ibpj.org • Managing Editor *Antigone Oreopoulou* managingeditor@ibpj.org

INTERNATIONAL BODY PSYCHOTHERAPY JOURNAL

The Art and Science of Somatic Praxis

Published by the European and United States Associations for Body Psychotherapy and Somatic Psychology

った。本稿では、この技法に注目し、現在の世界的戦争という苦境や難民の移動の状況における研究や活用での利用を目的とした。

スペインにおけるボディ・サイコセラピー

身体に関する歴史的な節目とスペインの性格分析的心理療法

José Martín Amenabar Beitia

本稿では、世界に広まったボディ・サイコセラピーの歴史的な節目を取り上げた。スペインのボディ・サイコセラピーにおける多様なモデルを概観し、現在のボディ・サイコセラピーに最も関連するアプローチの1つであり、国内外に影響を与えている性格分析心理療法に注目した。そして、歴史的、方法論的な観点から、またボディ・サイコセラピーの未来にとって最も重要であると考えられるいくつかの問題について検討した。

Editor-In-Chief *Madlen Algafari* editorinchief@ibpj.org

Deputy Editor *Aline LaPierre* deputyeditor@ibpj.org • Managing Editor *Antigone Oreopoulou* managingeditor@ibpj.org